

挨拶



岡田 浩樹
(神戸大学・教授)

皆さん、こんにちは。4月の新学期が始まった、心せき立てられるような時期の日曜日ですね。このような形でお集まりいただき、またオンラインの方々もご参加いただき、ありがとうございました。

今日の公開シンポジウムですが、内容の紹介は講師の方にさせていただくとして、この背景について簡単にご説明をして挨拶としたいと思います。私、神戸大学国際文化科学研究科の岡田と申します。このシンポジウムのおおもとには、人間文化研究機構のグローバル地域研究推進事業というのがあります。これは国内の研究機関16機関、120人以上の研究者が参加する大きなものですが、このグローバル地域研究推進事業というのは、従来の地域研究を超え、グローバルな広がりを見せているこの21世紀に地域研究にいかに関与するかということテーマにしています。その中はざっくりと4つのエリアに分かれていて、1つ目のエリアが地中海、2つ目のエリアが環インド洋、3つ目が海域アジア・オセアニア、そして順番は少し違いますが4番目が、この今回のシンポジウムの基盤となっている東ユーラシア地域です。

この東ユーラシア研究地域プロジェクトは、4つの研究機関から構成されております。北海道大学のスラブ・ユーラシア研究センター、東北大学の東北アジア研究センター、国立民族学博物館、そして神戸大学のPromis、すなわち神戸大学国際文化科学研究推進インスティテュートという4つの研究所と研究センターが基盤となっております。

「東ユーラシア」とは聞き慣れない言葉だと思いますけれども、従来の東北アジアであるとか、東アジアであるとか、そういうものを超えた地域を指します。というのも、ウクライナ戦争の状況を見れば、そこに北朝鮮の兵士が派遣されたり、あるいはさまざまな形で大きなウクライナロシアの戦争というものが我々の生活の中にも影響を及ぼしたりしているように、それから中国の動向等も含めてですね、国家や従来の地域を超えた影響の広がりがある。神戸大学拠点はこの一番広い東ユーラシアを担当しているんですけども、東ユーラシアにおけるウェルビーイングというのがこのセクションのテーマです。

その中で各研究機関がそれぞれのテーマを持ってるんですけども、神戸大学というのは、少子高齢化というのをテーマとして掲げております。少子高齢化という社会問題自体を扱うのではなく、これを手掛かりとして、現在の私たちのライフスタイル（生活様式）やライフ（生の在り方）の中に埋め込まれ、徐々に広範囲にリスクと表れてくる複雑系の問題を、いわゆる「スロー・グローバルリスク」として考えるということを今検討中です。たとえば戦争のような、いわゆるリスクというものがすぐ完全に迫るものではなく、じわじわとこの地域のリスクとなっているものに取り組んでいるということです。そうした中でこの少子高齢化というのは東アジア

アで深刻ですけど、そこに外国人労働者が動員されたり、あるいは食の生産、今日のテーマにつながるサプライチェーンも含め、いろいろな分野で影響を与えているということを考えています。これは結構長いプロジェクトで、現在3年目で残り3年あります。最終的な結論というのは、3年後に何らかの成果を出す際に出てくるということになります。神戸大学拠点の場合、その中で5つのグループに分かれて、各研究をさせていただいております。ただ、これは、(南山大学人類学研究所の)宮脇先生のような研究分担研究者を中心とするだけではなく、そのほかいろいろな研究者に関わっていただいています。皆さんもよくご存知のように、大学の研究状況はどんどん悪化してしまっていて、このような研究者が、大学のさまざまな行政や教育から離れて研究する場を提供するというのも、このプロジェクトの1つの大きなシステムです。

ということで、今日は何人かのパネリストの方をお招きして、シンポジウムが開催されます。これに非常に尽力された宮脇先生、それから南山大学の方にまず感謝いたします。それでは、公開シンポジウムを、よろしく申し上げます。